

研究テーマ

授業情報 | 山口県立西京高等学校(山口県) 第1学年

ICT機器の活用による自己や仲間の課題解決を楽しむことを目指した水泳授業の実践

実践研究のねらい aim

- 水中動作を可視化し、知識や技能の習得を図る
- 仲間との対話を通して、自己や仲間の課題を発見し、合理的な課題解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができるようにする

具体的な活用方法 use

- 《個別最適な学び》 知識・技能の定着を助けるデジタルドリル
- 《協働的な学び》 意見・回答の即時共有を通じた効果的なグループ学習

指導・支援の工夫 devise

単元

1年生：水泳

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
学 習 の 流 れ	オリエンテーション	導入活動：整列、挨拶、出欠確認、健康観察、見学者への指示 本時説明、準備運動、シャワーを浴びる、準備物の指示（ビート板、ブルブイ、タブレット、筆記用具など） 水慣れ、水浴び、ウォーミングアップアップ（水浴び、腰掛けキック、25mもしくは50mクロールなど×4本(種目は自由で)															
	学習の目標と進め方を知る	4泳法のポイント学習				泳力の異なる者同士でパディづくり		泳法選択学習(自己に適した泳法)					測定会説明準備		グループ別測定会		
	水慣れなど																
	ストリームラインの確認	2回目：クロール 3回目：平泳ぎ 4回目：背泳ぎ 5回目：バタフライ				撮影機器説明と練習、動作確認		複数のパディで構成されたグループ別 教え合い運動観察学習 (7、9、11回目)					測定会に向けた準備		15回目：個人種目		
	抵抗の少ない姿勢の確認	① キック・姿勢の学習 ② ストロークの学習 ③ 呼吸・コンビネーションの学習				タブレットやGoProを使ってみる		グループ内で撮影した映像を見てアドバイスをしあう							16回目：リレー種目		
													グループ練習		タイムとストローク数の計測を行う		
		まとめの活動： 整理運動、学習の振り返り、後片付け															単元のまとめ

活動概要及び工夫点

水中動画の可視化

タブレット端末及び水中での撮影が可能なカメラを活用し、プールサイド及び水中から撮影した動画によって、さまざまな角度から自己や仲間の動きを客観的に分析したり、上級者の動きと比較したりすることで、課題を明確にし、知識や技能の習得を図った。

個人の課題に応じて活動を選択できる場の設定の工夫

プールサイドから撮影するレーンと、水中動作が撮影できるレーンを分け、個人の課題に応じてレーンを選択して練習に取り組めるようにした。また、必要に応じて上級者の動画と自分の動画と比較できるような場を設け、それぞれの課題に応じて自ら活動に取り組めるように工夫した。

次時の課題につながる動きかけの工夫

毎時間の学習の終わりに、自分の泳ぎについて振り返る時間や生徒同士で意見交換をする場を保障することで、次時の活動に見通しを持つことができるように工夫した。

自他の取り組みを認め合う場面の工夫

グループでの撮影により、泳ぐ技術について分析したり、教え合ったりする場面や意見交換の場面を設定することによって、取り組みの良さの評価について、褒め合ったり励まし合ったりする関係性が生まれるように工夫した。



上級者の動画との比較

事前に撮影していた上級者(水泳部員)の動画を確認し、自分の動きと比較ができるように工夫した



水中動作の撮影

水中動作の可視化によって、自己や仲間の動きを今まで以上に客観的に分析することができた

成果と課題 results & tasks

成果

- 撮影した水中動作の確認は、普段確認しづらい自分の動作の確認や、細かな動作のイメージ作りに有効であった。客観的に確認することにより、課題を具体的に伝え合い、解決を図ることにつながり、効率的に知識や技能の習得を図ることができた。
- 動画の撮影方法を課題に応じて選択できるように場の設定を行ったことで、個人の課題に合った合理的な運動の取り組み方を自ら考えて活動する生徒が増えた。
- 生徒自身がICT機器の活用方法を選択することで、個人の課題に対する合理的な解決に向けて生徒自身が選択し、取り組むことができた。

課題

- 使用機器の説明に時間を要することもあった。機器の効果的な使用と運動量の確保、グループでの話し合い活動等の充実をどのようにさせるかが課題である。

